

平成 28 年度 山三留守家庭児童育成室の検証結果について

平成 29 年 6 月

吹田市教育委員

地域教育部放課後子ども育成課

吹田市立山三留守家庭児童育成室「すずめ学級」（以下、「山三育成室」とする）については、平成 28 年 4 月からこれまでの直営での運営から、社会福祉法人光聖会（蓮美幼児学園千里丘キンダースクールを運営）に業務委託している。なお、当該社会福祉法人は、平成 27 年度から、吹田市立千里丘北留守家庭児童育成室運営業務を委託しており、山三育成室運営業務については、2 室目の受託となる。

児童福祉法においては、事業に必要な水準を確保するために市町村による事業者への調査や命令等が定められており、運営業務を民間に委託している留守家庭児童育成室（以下、「育成室」とする）に関しては、直営で運営している育成室とは違い、前述のような観点から、放課後子ども育成課による検証を行い報告するものである。

～検証方法～

- 1 放課後子ども育成課職員 [担当事務職員、スーパーバイザー（元公立保育園保育士：SV）] による現地視察（週 1 回程度）
- 2 保護者へのアンケート：年間 3 回
（1 学期利用について、夏休み 2 学期利用について、年間利用について）
- 3 事業者への聴き取り
- 4 チェックシートを用いた業務の履行状況の確認と評価

1 山三育成室の児童数について

山三育成室については、平成 28 年 5 月時点で 43 名在室しており、学年の内訳として 1 年生が 20 名、2 年生が 11 名、3 年生が 12 名となっており、うち、配慮を要する児童（障がいをもつ児童）が 1 名在籍している。2 教室の運営（1 教室の定員は 40 名）で、1 教室当たりの児童数は 21 もしくは 22 名となっている。児童数の規模としては、36 育成室中 29 番目であり、育成室の中では少ない方である。

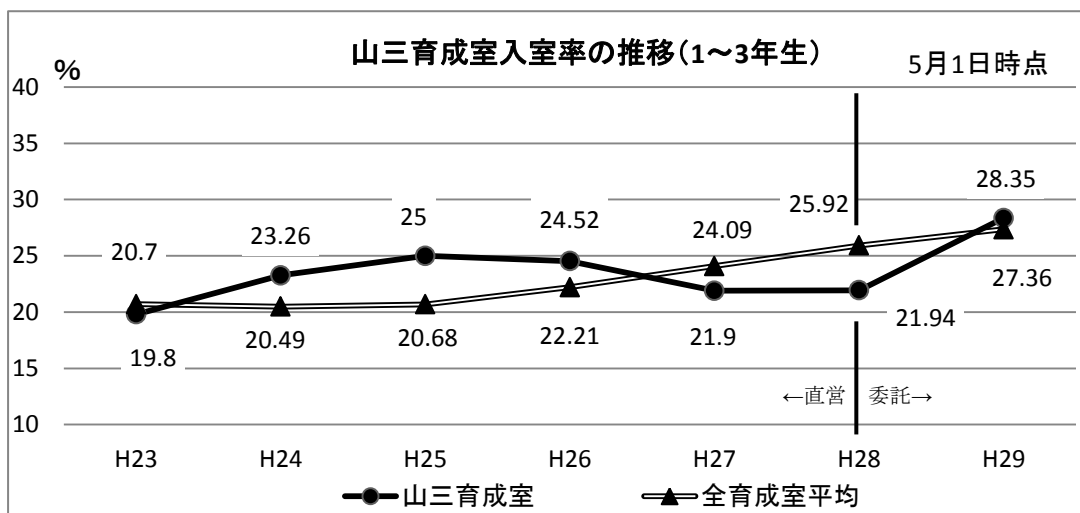
2 山三育成室への入室率（小学校児童のうち育成室を利用している児童の割合）の推移について

山三育成室の平成 23 年度から平成 29 年度までの入室率は、【表 1】のとおりとなっている。例年、山三育成室の入室率については、全育成室平均入室率の前後を推移している。業務委託が開始する平成 28 年度についても、例年の推移と同様の動きをしているが、前年度の低下傾向が続いている。しかしながら、平成 29 年度の入室率は、平成 23 年度

以降、最も高い伸び率となっており、全育成室平均を超えている。

入室率については、児童の友人関係や育成室の雰囲気、保護者の就労状況、他の児童との関係等、様々な要因によって変化するが、運営の民間委託による影響も考えられるので、今後の推移について注意が必要である。（後述の「山三育成室運営業務の民間委託による影響について」も参照。

【表 1】

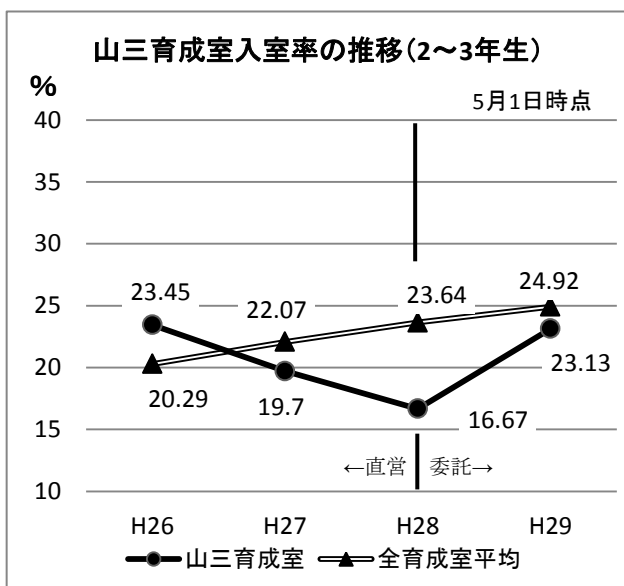


3 山三育成室運営業務の民間委託による影響について

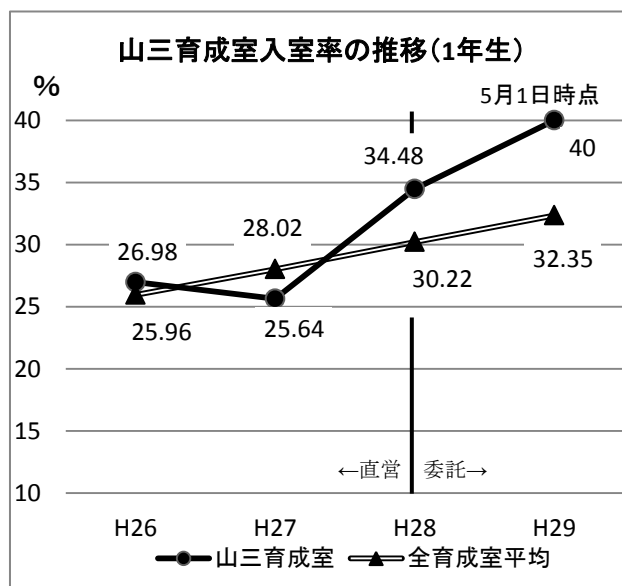
(1) 児童の入室率から見た民間委託の影響について

山三育成室に限らず、育成室の運営業務を民間委託する際には、前年度中に放課後子ども育成課により、保護者への説明会を行っているが、説明会において、保護者からは「育成室での保育内容が変わってしまうことへの不安」、「指導員が一度に全員変わって

【表 2】



【表 3】



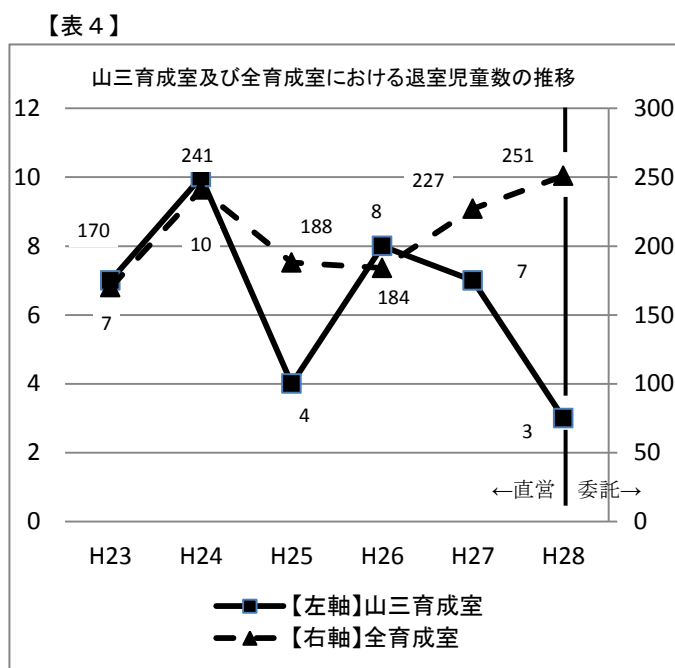
しまうことへの不安」の声が多く寄せられていた。引継ぎ保育を行い、そのような不安をできるだけ解消するには努めてきたものの、直営での運営から民間委託での運営の移行期に在籍した2～3年生については、児童の入室率が下回る結果となった（【表2】参照）。一方、入室当初から運営が民間委託となる1年生については、入室率は前年よりも上がる結果となった（【表3】参照）。

この傾向は、同時に運營業務の民間委託を開始している、他の育成室にも表れており、このことから、民間委託自体が不安なのではなく、指導員が代わることや、保育内容が変わるかもしれないことに対して不安があるものと推測される。

（2）退室児童数から見た民間委託の影響について

山三育成室の年度途中退出児童数の推移については、【表4】のとおりとなっている。山三育成室については、年度による変動が大きいため、はっきりとした傾向はないが、民間委託が始まった平成28年度の退室児童数は、平成23年度以降、最少となっている。全育成室の年度ごとの推移とは反対の動きとなっている。

児童が退室する理由については、入室率同様様々あるが、運営が民間委託されたことの影響は特にないものと思われる。



4 山三育成室の指導員配置について

山三育成室の指導員の配置については、2教室での運営であるため、教室に配置する指導員は4名となっている。また、配慮を要する児童に対する加配が1名必要であるため、1日当たり5名の指導員の配置が必要である。勤務形態や保有資格等の内訳については、正規雇用の指導員が、主任指導員を含め3名、非正規（アルバイト）指導員が2名、となっており、全員が週5日勤務する形態をとっていた。これらの者が休暇を取得した場合等、山三育成室で勤務できない場合は、余裕を持って配置をしている千里丘北育成室からの応援を行っており、同じ事業者による複数の育成室運營業務の委託により、柔軟な指導員配置が可能となっている。保有資格としては、4名は年度当初から、1名は年度途中で保育士もしくは教員の資格を保有しており、有資格者による安定的な運営を行っていた。

また、当該委託事業者の正規雇用の指導員は、午前中に、委託事業者が運営する認定こども園で保育補助の勤務を行い、育成室開室時間の13時から、育成室の勤務を行っている。こうすることによって、一般的なフルタイム勤務と同じ勤務時間となり、フルタイム勤務の正規雇用として、労働条件も保証されている。

一般的に、放課後児童クラブに勤務する指導員については、フルタイムの労働時間ではないために、労働条件がフルタイム勤務の雇用者に比べ悪くなっていることが多いが、山三育成室の正規雇用の指導員については、上記のような方法により、フルタイムでの正規雇用となっている。

5 山三育成室における保育内容について

(1) 日常の保育について

山三育成室については、主任指導員が千里丘北育成室から異動により赴任し、また、過去に吹田市の直営育成室で勤務経験がある者が複数の配属された。

配属された指導員は、主任指導員を中心とした、引継ぎ保育により、子ども達との関係づくりや、引き継ぎ書を活用した、育成室でのイベントやおやつの種類、下校コース等を丁寧に確認することにより、大きな混乱が起きることなく運営業務をスタートすることができていた。そして、入室経験のある児童から、昨年度の様子、良かった点や変更してほしい点等を聴き取り、保育を充実させる取り組みを進めたため、そのため、入室児童と指導員の距離も縮まり、過去のやり方にとらわれず、一体感のある育成室運営が行われていた。

保育内容については、室内や運動場での集団あそびや、自由あそび等、前年度から行っている千里丘北育成室でのノウハウを生かし良好に行われおり、子ども達が楽しく、夢中になって遊ぶ姿を見ることができた。また、指導員も子ども達の輪の中に積極的に入り、活動的に関わっていることも、育成室運営の安定に大きく貢献しており、現在の委託事業者の育成室運営についての方針が、子ども達のニーズに一致していることが窺われる。

秋には「すずめ祭り」という、入室児童が学年縦割りの班に分かれて、それぞれの班がコイン落としやお化けやしき、ボーリング等の催しものを企画・運営し、太陽の広場（放課後子ども教室事業）に参加している小学校の児童を招待し、一緒に楽しむイベントを行った。大掛かりなイベントを開催した児童の喜びと達成感も大きく、集団づくりを軸とした児童の健全育成を図る運営を感じ取ることができた。

配慮を要する児童への保育についても、放課後子ども育成課SVによる助言を参考にしながら、加配指導員を中心とした手厚い保育がなされており、他の児童との関わりの中、保護者ともしっかりと連携を図り、良好に進めることができています。

(2) おやつ提供について

おやつ提供についても良好に行われている。前年度と同じ業者からの発注だけでなく、児童が育成室に来る時間が早い日にはパン等の腹持ちのよいものを提供する等、アレルギーを有する児童への対応も含めて、特別なものがある訳ではないが、これまでの方法を継承しつつ、堅実に提供がなされている。

しかしながら、(全ての育成室で同様のことは生じているが) おやつ量や好き嫌いの好みに関する要望は、少ないながらも保護者から上がっており、日々試行錯誤を行っている状態である。

(3) すずめふれあいクラブ(事業者独自のプログラム)について

山三育成室では、年3回、「すずめふれあいクラブ」という、親子参加プログラムを行っている。育成室の開室日である第4土曜日の午前中を利用して、親子のふれあい、保護者同士の親睦、指導員と保護者との関係づくりを目的として、ゲームを行い交流を図っている。ゲーム終了後は、茶話会の形式でおやつパーティーを行い、指導員から普段の育成室の様子の話をしたり、ビンゴゲーム等で親睦を深める姿が見られている。普段は多忙な保護者にとって、子どもとの触れ合いを楽しむ有意義な時間の一つとなっており、他の家族と交流を図ることができる貴重な場となっている。親子での参加率も高く、保護者ニーズに合った、有効な事業者独自プログラムとなっている。

(4) 小学校・保護者との連携について

山三育成室については、多忙な保護者にできるだけ負担をかけない運営を心掛けている。保護者の来校回数を少なくするために、小学校の懇談会と日程を合わせて個人懇談を行っている。

小学校の教員も育成室に来室し情報交換を行うことができおり、小学校と育成室の連携による切れ目のない運営を行い、入室児童が混乱なく生活を送れるよう工夫がなされている。

6 山三育成室に関する保護者アンケートでの意見について

平成28年度中に、山三育成室の入室児童の保護者に対して3回のアンケートを実施しているが、その集計結果を通して検証を進めていく。

(1) 保育内容に関する保護者アンケートの結果について

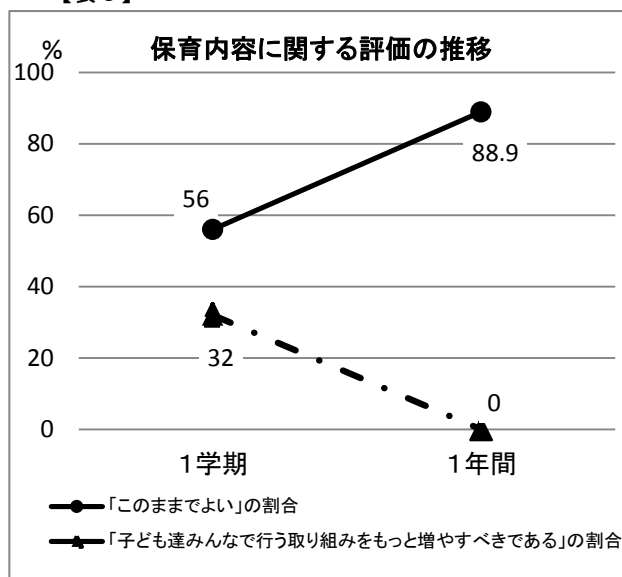
育成室の運営にあたり、その保育内容については中核を担うものであり、児童と指導員の信頼関係を構築するためには、保育内容について質の高いものでなければならない。保護者アンケートにおける保育内容についての回答の内、「保育内容全般」と「子ども達みんなで行う取り組みをもっと増やすべきである」との推移を【表5】に示している。

山三育成室の保育内容については、運営開始当初からある程度の評価を得ていたが、

これまでの直営での運営の頃と比較して自由あそびの時間が多かったため、子ども達みんなで行う取り組みを増やしてほしいとの意見も多く見られていた。

この表を見る限り、当初段階においては保護者のニーズを満たさきれていない部分があった結果となっているが、夏休みから2学期になるにつれて、デイキャンプ、クッキング保育、すずめ祭り等、子ども達が主体的に関わる取り組みを行うことによって改善が見られ、年度末のアンケートでは、「保育内容全般」は非常に高い評価を得ており、反対に、「子ども達みんなで行う取り組みをもっと増やすべきである」は、全く無くなっている。運営事業者のニーズを汲み取る能力と柔軟な対応力が見て取れる結果となっている。

【表5】



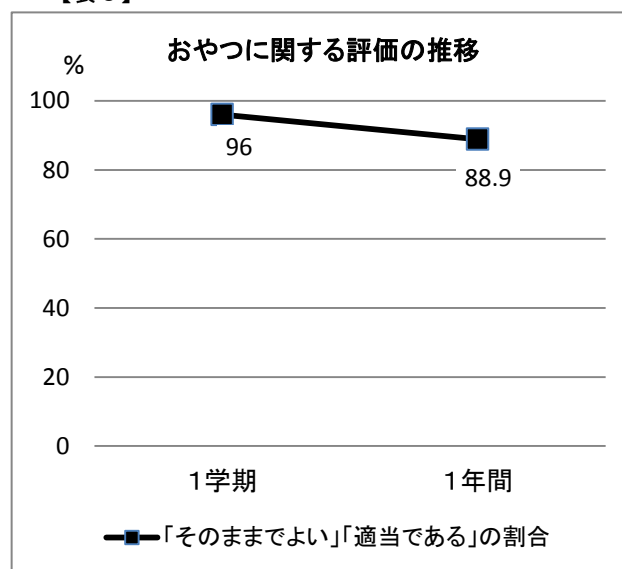
(2) おやつに関する保護者アンケートの結果について

子ども達が育成室で生活をしていくに際して、「おやつ」は楽しみの1つであり重要なポイントである。また、保護者が、就労から帰宅する時間が遅く、昼食と夕食の間隔が非常に長い児童もいるため、「おやつ」は昼食と夕食の間の時間を埋める重要なものとなっている。

現在の委託事業者によるおやつを提供については、良好な運営ができているが、保護者アンケートの集計からも読み取ることができる。設問がある「学期利用に関するアンケート」と「1年間を通した利用に関するアンケート」

において、年度当初から肯定的な意見が非常に多く、年度末にかけても高い評価は維持されている。おやつや量や添加物等の改善に関する意見については、自由記述欄への記載は見られるが、このままの方針を継続してもらいたい。【表6】

【表6】



(3) すずめふれあいクラブに関する保護者アンケートの結果について

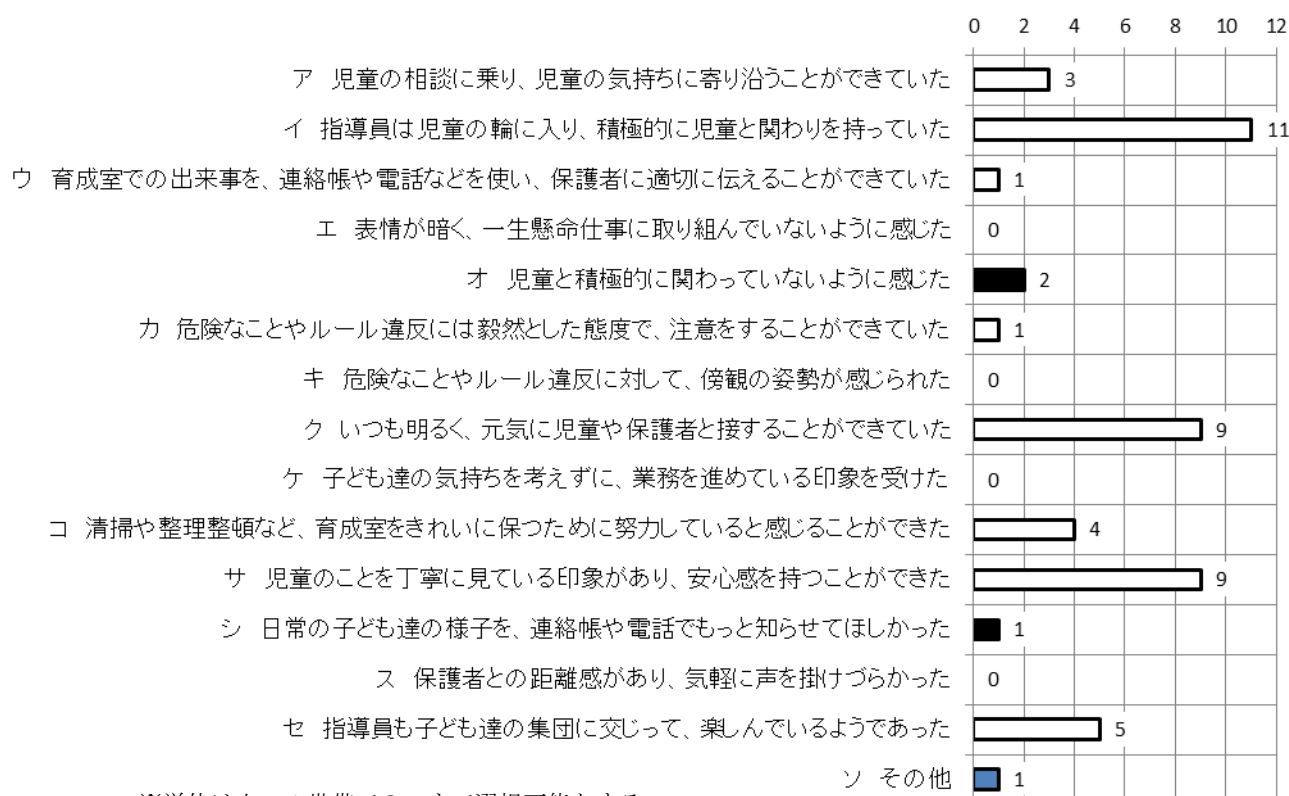
委託事業者独自のプログラムである、すずめふれあいクラブについて、年度末に実施したアンケートでは、「ア 親子が一緒に過ごす時間ができてよかった」「イ 他の家族との交流もできてよかった」「ウ 指導員の話聞くことができ、普段の育成室の様子もわかり有意義であった」「エ 普段は忙しく参加回数も限られるので、時間、回数ともちようどよい」の4つの項目に全ての回答がされており、プログラムの狙い通り、有効な手段であったことがわかる。

保護者に普段の育成室の様子を知ってもらい、指導員と保護者、保護者同士の交流を図ることは、とても重要なことであり、保護者からの要望も多いところなので、これからも継続して開催をお願いしたい。

(4) 指導員に関する保護者アンケートの結果について

山三育成室の指導員については、年度末実施の「1年間の利用に関するアンケート」において設問している。回答結果については、【表7】のとおりとなっている。

【表7】 1年間のアンケートにおける「指導員について」の回答



※単位は人、1世帯で3つまで選択可能とする

※ のグラフ … 肯定的な意見

のグラフ … 否定的な意見

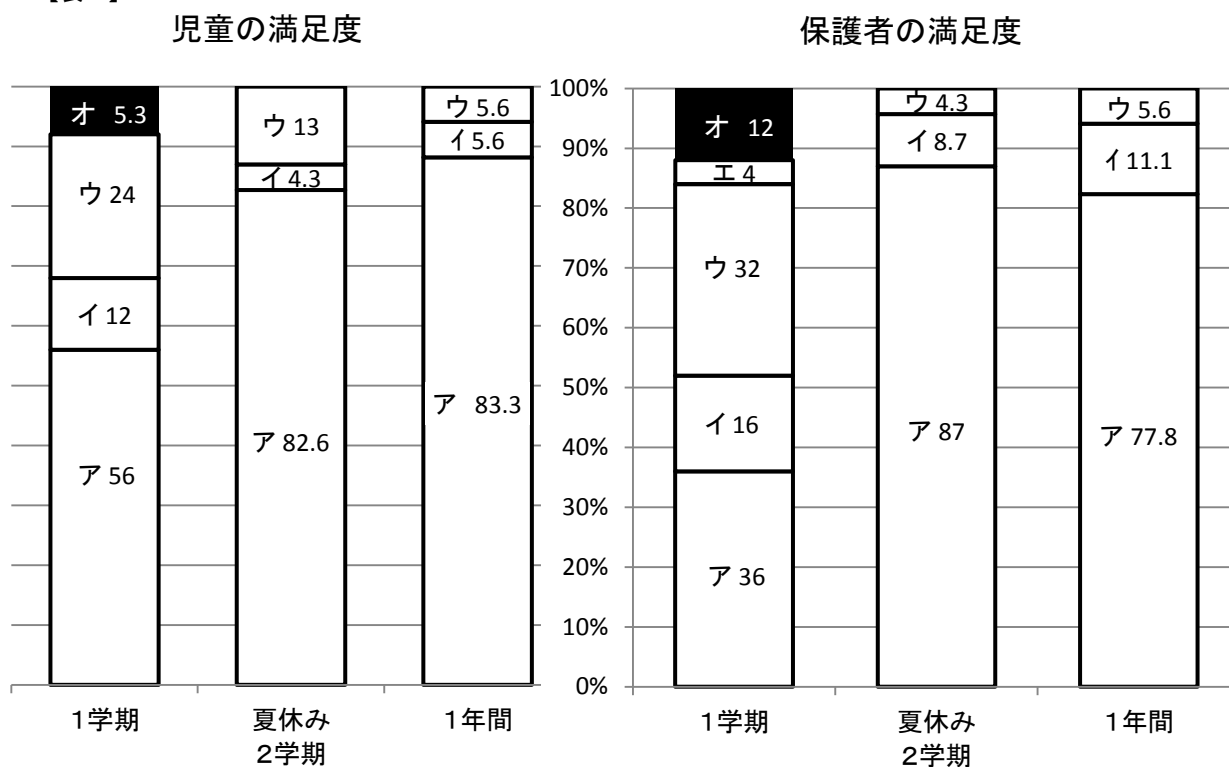
(4) 児童・保護者の全体的な満足度に関するアンケート結果について

育成室全般について、入室児童がどの程度「楽しい場所となっているか」、及び保護者にとって「どの程度満足できるものとなっているか」を尋ねる質問である。

児童・保護者へのアンケートともに、当初から「カ」より低い評価は得ておらず、その後も高い評価を維持できている。特に児童の満足度において、最も評価の高い「ア」の回答の割合が増加しており、年度末のアンケートでは、80%以上の児童の評価が「ア」となっている。また、保護者の評価については、児童の評価ほど高くはないが、かなり高い評価を得ている。

育成室全般に対する児童・保護者からの評価を見る限り、現在の方向性を継続し、今回の高い評価を維持し続けることが重要であると判断することができる。【表8】

【表8】



	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	未
保護者	十分満足できる				どちらでもない				不満である	未回答
児童	とても楽しい場所				どちらでもない				つまらない場所	未回答

□ 評価が高い □ 評価が低い

7 終わりに

山三育成室運營業務について、放課後子ども育成課職員による巡回や、保護者アンケートの結果等を用いて検証を行ってきた。現在の委託事業者における運営内容については、開始当初から、非常に良好に行われていると判断できる。アンケートの自由記述欄においても、「子どもが楽しそうにしている」等、子ども達が育成室を楽しんでいる様子が書かれた記述を多く見ることができ、子ども達にとって「育成室は楽しい場所である」との認識が広がっていることがわかる。

山三育成室については、吹田市で初めて直営から、民間事業者による運営となった育成室であり、その面から運営開始当初は、様々な困難があるものと予想され、保護者からも不安の声が寄せられていたが、主任指導員を中心とした指導員全員の強力なチームワークのもと、そのような不安は杞憂に終わったものと思われる。

今後とも現在の方針を継続し、保護者、学校、放課後子ども育成課とも連携を密にしながら、運営していくことが最善であると思われるが、自由記述欄での保護者から意見を見ていくと、「連絡帳の記載について」や「おやつの内容について」等、今後、改善が必要なのところも見えているので、現在の児童・保護者からの高い評価に慢心することなく、更なる向上を目指し、運営を行ってみたい。